

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 3	子育て支援サービスの安定的な提供
------	-------	------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の 目指す姿	子育て家庭のニーズに応じた必要な子育て支援サービスが安定的に提供され、安心して子育てができ、子どもが育つ環境が整っている。
計画期間 の方向性	○ニーズ量に対応する子育て支援サービスの提供 子どもと家庭を取り巻く環境が変化する中、各家庭がより良い子育てを選択し、子どもたちが安心して成長できるよう、子ども・子育てに関する実態調査により、ニーズを把握し、子育て支援サービスの充実を図ります。

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績） 戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
19	一時保育事業	こども若者支援課・幼児保育課	在宅子育て世帯に、一時的に必要な保育サービスを提供する。						395,131千円 (397,819千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① キッズルーム（4ヶ所）の延べ利用者数		人	8,915	11,372	12,491	12,431		
	② 区立保育園での一時保育の延べ利用者数		人	2,595	3,552	3,880	3,567		
	R5(2023)	キッズルーム茗荷谷を令和5年4月に開設しました。							
20	病児・病後児保育事業	こども若者支援課	病中・病気回復期の子育て世帯に、一時的に必要な保育サービスを提供する。						115,491千円 (111,256千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 病児・病後児保育室（4ヶ所）の延べ利用者数		人	2,790	3,427	3,935	4,127		
21	ベビーシッター等による子育て支援事業	こども若者支援課	子育て世帯に、一時的に必要な家庭保育サービスを提供する。						370,990千円 (401,018千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① ひとり親家庭子育て訪問支援券の延べ利用枚数		枚	806	905	936	849		
	② ベビーシッター利用料助成制度の延べ申請件数		件	3,003	3,881	4,467	4,893		
	③ ふたごちゃん・みつごちゃん家事・育児サポート利用料助成制度（旧：多胎児家庭サポーター事業利用助成制度）の延べ申請件数		件	60	65	104	125		
	④ おうち家事・育児サポート事業の延べ利用件数		件	2,533	3,808	4,961	10,711		
	R5(2023)	多胎児家庭サポーター事業利用助成制度の利用促進を図るため、6年4月から事業名を「ふたごちゃん・みつごちゃん家事・育児サポート利用料助成制度」に変更しました。							
	R6(2024)	ベビーシッター利用料助成制度について、6年4月から病児・病後児利用の際の助成対象を従前の「小学校3年まで」から「小学校6年生まで」に拡大しました。							
R7(2025)	ベビーシッター利用料助成制度について、新たに小学校1～6年生の障害児を助成対象に追加し、障害児及びひとり親家庭の未就学児の助成上限時間を288時間に拡大しました。 また、おうち家事・育児サポート事業について、利用上限時間を96時間に拡大しました。								
22	地域子育て支援拠点事業	こども若者支援課	子育て世帯が、地域において相談や交流できる場を提供する。						50,050千円 (48,998千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 地域子育て支援拠点（4ヶ所）の延べ利用者数		人	6,505	9,414	9,255	11,312		

●特記事項（実績の補足）

--

2 社会ではどのような動きがあったか (社会環境等の変化)	
人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。	
チェック	チェック項目
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）

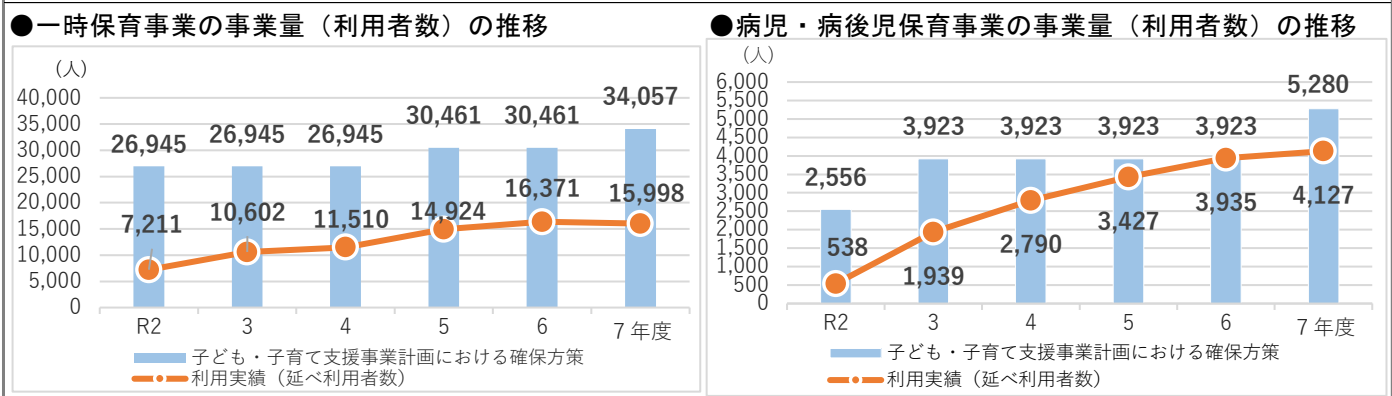
3 成果や課題は何か（点検・分析）	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
-------------------	---

〇ニーズ量に対応する子育て支援サービスの提供

令和7年度においては、ベビーシッター利用料助成制度について助成対象の拡大や障害児・ひとり親家庭の未就学児の助成上限時間の拡充を行ったほか、おうち家事・育児サポート事業の利用上限時間引上げによる利用者の利便性向上などにより、子育て支援施策の充実を図りました。

また、病児・病後児保育事業に関しては、子育て支援計画に基づく新規施設整備に向けた検討を行うとともに、関係機関等との調整を進めました。

引き続き、子どもと家庭を取り巻く環境の変化を把握しながら、子育て家庭のニーズに合う子育て支援サービスを安定的に提供していくことが求められています。



【SDGsの視点】	
3 すべての人に健康と福祉を 	一時保育所の利用により保護者の心身のリフレッシュを図ったほか、地域子育て拠点事業では保護者の子育てに関する悩みや不安の解消や、子ども同士の交流に寄与しました。また、病児・病後児保育事業では専門医との連携により、預かった子どもの健康管理を適切に行いました。
4 質の高い教育をみんなに 	地域子育て支援拠点事業では、離乳食や乳幼児の歯科などに関する講座を行い、子育て世帯において必要な教育の機会を提供しました。
8 働きがいも経済成長も 	一時保育事業や病児・病後児保育事業において子育て世帯の就労と育児の両立を支援するとともに、各種助成制度の実施により、保育サービスを利用する保護者の経済的な負担の軽減を図りました。 ベビーシッター利用料助成制度について、小学生の障害児を助成対象に追加し、障害児及びひとり親家庭の未就学児の助成上限時間を拡大しました。また、おうち家事・育児サポート事業についても、利用上限時間の引上げを行いました。
17 パートナーシップで目標を達成しよう 	一時保育事業、病児・病後児保育事業、地域子育て支援拠点事業では、運営を行う委託事業者やNPO等の地域団体と事業内容に関する提案・要望などの情報交換を積極的に行うことで、子育て世帯のニーズを適時適切に捉えたサービスの提供を行いました。

4 今後どのように進めていくか（展開）	3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。
---------------------	---

一時保育事業における利用者の利便性の向上や、ベビーシッター等による子育て支援事業の拡充について検討していくほか、病児・病後児保育事業の施設整備に向け、関係機関との調整を進めていきます。引き続き、子どもと家庭を取り巻く環境の変化を的確に捉え、多様化する子育て世帯のニーズに対応した柔軟な事業展開や事業の利用に当たり区民の利便性が向上する取組を推進していきます。